

## 徳山の歴史特設コーナー

## 「山陽新幹線開通50周年記念 徳山駅のあゆみ」



明治時代の徳山駅



昭和10年



昭和12年の改築後



昭和37年頃

今年の3月10日には、山陽新幹線が全線開通50周年を迎えます。これを記念して、明治から現在までの徳山駅のうつりかわりを写真で紹介しています。

明治21(1888)年に兵庫から姫路の間で開通した山陽鉄道は、明治30(1897)年には徳山まで開通し、徳山駅がつけられました。

翌年、九州への足として、徳山と門司を結ぶ門徳汽船が1日3回の運航をはじめました。水陸交通の要衝となった徳山のまちには、人や荷物が集まり、駅付近には旅館が増え、商店も大きくなり、活気にあふれました。

そんな中、明治33(1900)年には徳山は、村から町になりました。しかしその翌年、山陽鉄道が赤間関(下関)まで全線開通すると、それまでの終着駅としての利点を失い、門徳汽船も廃止され、まちは活気を失いました。

日露戦争の直前、海軍は煉炭製造所の建設を決めました。景気が沈滞しつつあったまちの活気を取り戻すため、野村恒造町長を代表に町民あげて、海軍煉炭製造所を誘致する運動を積極的に行いました。それが実り、明治38(1905)年4月、海軍煉炭製造所が操業をはじめました。

大正時代に入ると、日本曹達工業株式会社(現・株式会社トクヤマ)など、いくつかの民間の工場ができ、明治33(1900)年ごろには、一日700人前後の乗客が、大正7(1918)年頃には1000人近くにのぼりました。

明治からの駅舎は、昭和12(1937)年に改築され、市街の大半が焼けた、昭和20(1945)年7月の空襲では、被害をまぬがれ、残りました。

昭和44(1969)年には、徳山民衆駅(徳山ステーションビル)が完成し、新幹線が停車することも決まりました。

新幹線の駅は、当初、「現徳山駅併設」案のほか、「岩徳線周防花岡駅併設」や「徳山駅北方併設」の案もありましたが、周南団地を通過するのは問題が多いということがあり、「現徳山駅併設」案に落ち着きました。徳山ステーションビルには、みやげものをはじめ、食料品や衣料品、雑貨などのお店、飲食店街などがあり「駅ビル」として親しまれました。

昭和50(1975)年3月10日には、新幹線が博多まで開通し、徳山駅でも

開業記念のセレモニーが行われました。

(周南市美術博物館  
学芸員 松本久美子)



びびびの美  
(2025年2月前半号)



昭和50年に山陽新幹線が開通した頃



# しゅうなん アート・ナウ2024

周南市を中心に広く活躍する作家の作品を、平面・立体・書・写真の4部門で展示します。  
周南の「今」をどうぞ鑑賞ください。

- 会期/3月15日(土)~23日(日) ※17日(月)休館
- 会場/周南市美術博物館 展示室1・2・3 ■開館時間/9:30~17:00(入館は16:30まで)

観覧  
無料



2023年の会場風景

第22回

## 周南市美術展 2024

先月開催された、第22回周南市美術展2024。応募総数278点の中から書部門・吉本美和子氏の「行書千字文」が大賞に選ばれました。  
主な入賞者は右のとおりです。

平面88点・立体28点・書31点・写真80点が展示されました

市美展大賞

書

「行書千字文」  
吉本美和子



市美展準大賞(部門別)



立体 川中 和好  
「小ジラ誕生」



平面 藤井 剛  
「利根川支流 黒部川」



写真 中村 正寛 「黄昏の刻」

書

「大江満雄の詩」  
大重 栄子

大賞・準大賞  
作品紹介



## 第33回林忠彦賞の授賞式を周南市で開催!

受賞者を一緒に  
お祝いしませんか

- 受賞記念写真展 4月26日(土)~5月11日(日)
- 授賞式 4月26日(土) 遠石会館

第33回の受賞作品の発表は3月上旬の予定です。今回はどんな作品が選ばれるのでしょうか。

写真の三大賞に数えられる「林忠彦賞」をより広く知っていただけるよう、昨年に引き続き授賞式を、周南市で開催します。どなたでもご参加いただけますので、みなさんにもぜひ一緒にお祝いしていただきたいと思ひます。

※授賞式の詳細については、決まり次第ホームページ等でお知らせします。



昨年の写真展会場での受賞者 奥村さん



昨年の授賞式の様子

### 林忠彦賞はこんな賞 —社会は心を撃つ写真をさがしています—

周南市出身の写真家・林忠彦の名を冠した「林忠彦賞」は、林忠彦が「太宰治」「坂口安吾」などの作品で戦後の写真界に颯爽と躍り出た、最もエネルギッシュな時代に照準を合わせ、「社会が求める、その時代を一番象徴する写真を選び出そう」をコンセプトとし、未来を切り開く写真家を見いだす賞です。1991年(平成3)林忠彦のふるさとである周南市と周南市文化振興財団が創設、今回で33回を数えます。

〈選考委員(敬称略・五十音順)〉

- 大石芳野 写真家
- 笠原美智子 長野県立美術館館長
- 河野和典 編集者、(公社)日本写真協会出版広報委員
- 小林紀晴 写真家
- 有田順一 周南市美術博物館館長

LAWSON

ローソンの  
ソフトクリーム

各205円(税込)

ローソン徳山動物園前店 0834-32-8363

※画像はイメージです。

### 美博クイズ~!(134) もんだい

市美展大賞の作品に  
書かれている、  
「千字文」ってなんだろう?

周南市美術博物館  
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ( )内は20名以上の団体  
※18歳以下および70歳以上無料  
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日

展示室 3 コレクション展示室

コレクション展「戦後80年を迎えて」 3/26(水)~6/15(日)



宮崎進「歌う俘虜」1960(昭和35)年頃 ブロンズ

広島と長崎に原爆が投下され、戦争が終わって80年が経ちました。それは「戦争は二度と起こしてはならない」という思いに包まれた歳月でした。しかし現在、ウクライナ侵攻やガザ侵攻など、世界では分断や対立が広がっています。

本展は、シベリア抑留での耐え難い体験を生きる希望へと昇華させた画家・宮崎進※の作品を中心に展示します。いまいちど立ち止まって、戦争のない世界を考えるきっかけとなればと思います。



宮崎進「檻」1988(昭和63)年 ミクストメディア

※大正11年、徳山市御弓町(現・周南市)生まれ。昭和17年に応召、4年にわたるシベリア抑留を経験。帰国後、画家として活動を始める。

展示室 4 林忠彦記念室

戦時下の日本 6/15(日)まで

戦後80年にちなみ、「戦時下の日本」シリーズを展示します。

林忠彦は、昭和14(1939)年に上京し、翌年東京光芸社に入社します。内閣情報部主催の写真展に出展し好評を得たことをきっかけにプロ写真家としてデビューしました。内閣情報部編集の『写真週報』での連載を始めとして、次々と作品が掲載されました。さらに昭和17(1942)年、北京大使館の外郭団体として華北弘報写真協会を結成します。半年ごとに東京と北京を往復し、報道カメラマンとして、戦場へ向かう兵士たちや軍需工場で働く女性たち、市街地の様子や農村部の人々など、当時の状況を各地で撮影しました。



「出動 松戸飛行場」1942年 撮影 林忠彦

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は3/30(日)まで

まどさんは、クレヨンや水彩絵の具、ボールペンなどのペンを使って抽象画を描いています。この作品は何重にも色が塗り重ねられ、独特な色合いとなっています。白い緑の部分に注目してみると、紙を削っており、それが白い線のように見えるのがわかります。写真ではなかなかわかりづらいですが、実物の作品の前で、まどさん独自の描き方をぜひご覧ください。

〔(タイトルなし)〕

クレヨン、水彩、ボールペン、フェルトペン、油性ペン、削り・紙



徳山の歴史 特設コーナー

「山陽新幹線開通50周年記念 徳山駅のあゆみ」 4/30(水)まで

山陽新幹線は今年3月10日に全線開通50周年を迎えます。これを記念して、明治から現在までの徳山駅のうつりかわりと、新幹線にまつわる資料を展示しています。



開業日当日の記念入場券



新幹線開業セレモニー 昭和50(1975)年3月10日

周南市美術博物館 その他の3月の展覧会

9:30~17:00(入館は16:30まで)

観覧無料

- アトリエ陽だまり・グループ万葉会水彩画展 ..... 2/28(金)~3/2(日) (最終日は15:00終了)【展示室1・2】
- 第24回書游会展 ..... 3/8(土)~9(日) (最終日は15:30終了)【展示室1・2】
- よつ葉の会作品展 ..... 3/27(木)~30(日) (最終日は16:00終了)【展示室1・2】

美博クイズ~! (134) こたえ

漢字を1,000文字使って作られた漢詩だよ。6世紀頃中国で作られて、さまざまな知識や用語が書かれているよ。全て異なる漢字なので、日本でも漢字の勉強や書道のお手本に使われてきたんだ。

4字で一句×250句で1,000文字。韻も踏んでいるよ。

確かな技術で まちを支え 未来をつくる

ソルコム

株式会社ソルコム 山口支店

TEL (083)988-2700

URL <https://solcom.co.jp>



# ART and HISTORY インフォメーション

**周南** 周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

- しゅうなんアート・ナウ2024 3/15(土)~23(日)
- アトリエ陽だまり・グループ万葉会水彩画展 2/28(金)~3/2(日)
- 第24回書遊会展 3/8(土)~9(日)
- よつ葉の会作品展 3/27(木)~30(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

- 企画展 遠藤春生絵画展「或る星の下に」  
尾崎正章常設展「その軌跡をたどる」 ~3/2(日)
- 企画展 林忠彦写真展  
「世界と日本のこころ旅(世界編)」  
尾崎正章常設展「白い叙情」  
3/29(土)~5/25(日)

**防府** 毛利博物館 ☎0835-22-0001

- 企画展「毛利家の雛まつり」 ~4/7(月)

**山口** 山口県立美術館 ☎083-925-7788

- 第77回 山口県美術展覧会 ~3/16(日)

**萩** 山口県立萩美術館・浦上記念館 ☎0838-24-2400

- コレクション展「美人画の四季」茶陶 萩  
「萩美百華」 ~4/13(日)

**萩** 萩博物館 ☎0838-25-6447

- 阿武川歴史民俗資料館開館  
(阿武川ダム建設)50周年記念企画展  
「ふるさと萩の継承  
—阿武川流域の暮らし—」 ~3/2(日)
- 世界遺産登録10周年記念企画展  
「シン・萩の世界遺産」 3/15(土)~7/6(日)

**長門** 香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

- 香月泰男のデッサン・素描展 3/1(土)~(予定)

**下関** 下関市立美術館 ☎083-245-4131

- 特別展「グライズデール・アーツと下関  
—ライフパーク/人生という芸術の肖像」  
~3/23(日)


下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

- 企画展「神と仏の物語—長府寺社巡り—」 ~4/13(日)

~ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館 ~

## 周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館


- 9時30分~17時(入館は16時30分まで)
- 観覧料: 一般200円(160円) 学生等100円(80円)  
( )内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料  
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日: 月曜日 ※3/3(月)~3/28(金)は展示替え等のため休館



**企画展** 中・小展示室 **3月2日(日)まで開催中**

## 遠藤春生絵画展「或る星の下に」

**観覧風景**



木や花や生物は、自然の循環に従いながらそれぞれの場所に存在し世界を構成しています。遠藤氏は卓越した描写力で自然の移り変わりや生き物たちのたたずまいを見事に描き出しています。緻密な表現の奥にある、かけがえのないこの地球の息づかいをぜひ感じとっていただけたらと思います。

遠藤春生氏 来館予定日 **3月2日(日) 13:00~16:00**

**常設展【同時開催】** 大展示室

## 尾崎正章常設展「その軌跡をたどる」

常設展では初期から晩年まで、尾崎の画業をたどる作品を展示しています。「白い叙情」と評される白を基調とした作品をはじめ、青みを帯びた色調の瀬戸内の風景、花柄模様を背景にした人物など、テーマや画風の移り変わりとともにご覧ください。



**3月29日(土) ▶ 5月25日(日)**

**「世界と日本のこころ旅」**

林忠彦写真展 世界編


周南市出身の写真家・林忠彦は旅好きとして知られ、50ヶ国以上の国々を巡り、世界各地の風景を撮影しました。みなさんも、林の写真とともに、世界を旅してみませんか。



林忠彦 撮影「モロッコ(ヘニフラ)」  
※国名(地名)は「林忠彦写真集 異郷好日」(1989年)をもとにしています。

**尾崎正章常設展「白い叙情」** 大展示室

尾崎正章はふるさと周南を中心に、人物や港の風景、身近な品々などをモチーフに絵を描きました。昭和40年代から50年代にかけては画面全体が白く霞がかった作品が多くなり、「白い叙情」と評されるようになります。今回は尾崎ならではの白で包まれた世界をご覧くださいませ。



「冬ざれ」1975年 油彩・キャンバス

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>



**ミニコラム ガス燈**

今年も桜の時期が近づいてきました。「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心は のどけからまし」という在原業平の歌のように、(いつ)開花するか(な)とそわそわ、開花すると(満開はいつ頃かな)と桜を眺めながら通勤し、満開になると(いつまで見頃が続くかな)とちよつと寂しくなり、桜が気になる毎日をご過ごします。一ヶ月にも満たない期間ですが、私にとって一年のなかでもとても印象深い時期です。さて、今年は終戦から80年を迎えます。美博では、今月から林忠彦記念室で「戦時下の日本」シリーズを展示します。26日からは「戦後80年を迎えて」と題したコレクション展を開催します。例年、夏に戦争について考えることが多いかもしれませんが、今年の春は「緑と文化のpromenade」の桜のトンネルでお花見をしつつ、美博に立ち寄って、作品を通じて戦争について平和について、感じてみてはいかがでしょうか。

\*林忠彦記念室 コレクション展について、会期など詳しくは本紙3ページをご覧ください

(前山)

今年も桜の時期が近づいてきました。「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心は のどけからまし」という在原業平の歌のように、(いつ)開花するか(な)とそわそわ、開花すると(満開はいつ頃かな)と桜を眺めながら通勤し、満開になると(いつまで見頃が続くかな)とちよつと寂しくなり、桜が気になる毎日をご過ごします。一ヶ月にも満たない期間ですが、私にとって一年のなかでもとても印象深い時期です。さて、今年は終戦から80年を迎えます。美博では、今月から林忠彦記念室で「戦時下の日本」シリーズを展示します。26日からは「戦後80年を迎えて」と題したコレクション展を開催します。例年、夏に戦争について考えることが多いかもしれませんが、今年の春は「緑と文化のpromenade」の桜のトンネルでお花見をしつつ、美博に立ち寄って、作品を通じて戦争について平和について、感じてみてはいかがでしょうか。